地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
地球環境変化の人間的側面（HD）分科会（第２４期・第６回）
議事要旨

１．日時：平成 31 年 4 月 4 日（木）13:00~15:30
２．会場：日本学術会議 5C-(1)号室
３．出席者：氷見山幸夫（委員長）、石川義孝、近藤昭彦、櫻井武司、篠田雅人（スカイプ）、春山成子、吉田謙太郎、亀山康子
（欠席：阿部健一、岡本耕平、城山英明、山口しのぶ、山田高敬）
４．配布資料
資料１　前回議事要旨
資料２　シンポジウム事後報告書
資料３　マスタープラン 2020 陸域持続可能性（内閣府フォーマット、補足説明資料）
資料４　2019 年度・第一部予算執行方針

５．議事
（１）HD に関する国際的・国内的動向について
・氷見山委員長より Future Earth の近況について、経済界が反応するようになってきたとの報告があった。また、昨年 7 月に発足した ISC（国際学術会議）について、同年 9 月に WSSF（世界社会科学フォーラム）を福岡で開催し、その後も順調に活動を進めている、IGU、CIPSH（国際哲学人文科学協議会）などが Science and Humanity Decade of Global Understanding（S&HDGU）を提案しており、それへの対応で文理融合の真価を発揮するか注視しているとの発言があった。
・委員長より、本分科会は「学術の動向」2018 年 4 月号で「地球環境変化の人間的側面研究の推進に向けた SDGs および Future Earth への取組みの促進」をテーマに特集を組み、特に現在 Future Earth の中心となっている KAN（Knowledge-Action Network）に焦点を当てたこと、これからの活動では Future Earth のもう一つの柱である GRP（Global Research Programme）にも注目すべきであることが指摘された。
（２）公開シンポジウム「地球システムと私たちの生活－人新世時代の想像力」のフォローアップ
・資料 2 の事後報告書を確認し、時宜を得た内容だったものの周知不足で参加者数が少なかったことを反省した。
・分科会活動の今後の方向性について議論した。地域研究における環境への関心には個人差がある、研究性が薄いと認識されがち、研究対象は地域レベルでも世界観の共有が必要、理工学系は将来指向が強いのに対し人文社会科学系は過去から現在を主に扱う、理工系も防災を通して人文社会的視点を取り込むようになってきた、同じ「温暖化」でもその影響の深刻さは地域ごとの社会的状況によって違う、などの意見があった。
（３）SDGs に向けた HD 関連プロジェクト等の振興および提案について
・委員長よりアジアの持続可能な土地利用に関する大型研究計画書（資料 3）の説明があり、議論の後、HD に深く関係する計画として関与していくこととした。
（４）JpGU 2019 年大会国際セッションについて
委員長より HD セッション開設の意義についての説明と、11 件（うち 3 件は氷見山委員長、櫻井

副委員長、篠田委員）の発表をもって開催されるとの報告があった。

（5）その他

今年度の予算執行方針について、資料 4 を踏まえて議論した。予算が足らず分科会ごとに 1.5 回しか会議を開けないという上位委員会からの通達があるが、2 回目のシンポジウム（ないし学術フォーラム）を開催することとし、次の方向で準備を進めることとした。

・日時：2019 年 10 月 12 日（土）午後、できれば午前に分科会を開催。

・場所：日本学術会議講堂

・形態：公開シンポジウム（ないし学術フォーラム）

・申請手続：学術会議の講堂で土日、10～12 月に開催する場合は 6 月の幹事会にかける必要があり、そのためには提案書を 6 月 10 日頃までに提出する必要がある。その前に地域研究、環境学、地球惑星科学の各委員会にかけなくてはならないので、5 月下旬には提出しなくてはならない。学術フォーラムの場合は 4 月末までに提出。シンポジウムのタイトル、構成、演者の候補等提案書の内容の取りまとめは委員長に一任し、意見交換はメール上で行うこととした。